

## 日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員  
上野 正博

### 京都議定書

温室効果ガスの排出を生物のいろんなデータ減らすと経済的な損失を表示して解析する地が大いいと受け入れを理情報法システムの練拒否したのですから、習がてら、海面が上昇まあ身勝手この上ないすると舞鶴の海岸はど国です。アメリカは相う変わるかを調べてみ

たときに水没する範囲です。古くから高潮の被害に悩まされていた舞鶴では、海岸近くのかさ上げ工事や排水路工事が進んでいるので、1.2位の海面上昇ではほとんど水没しません。でも、3.5上がると、ご覧のように田辺城から白鳥街道付近までが水没してしまいます。図を眺めていて大変

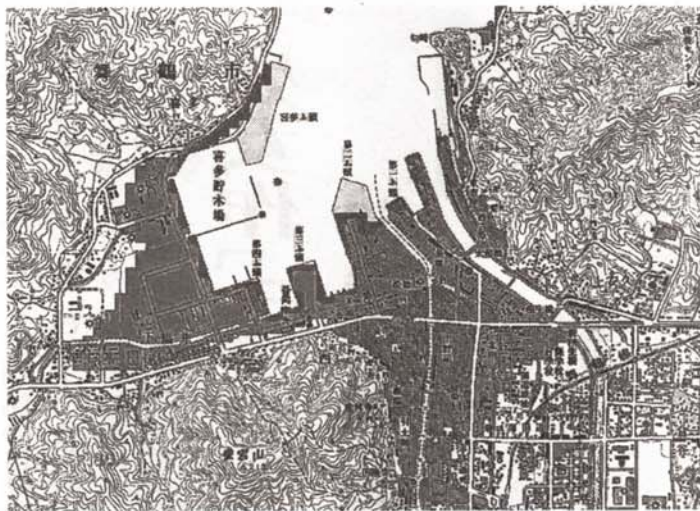
なことに気がつきました。昨年の台風23号で浸水した範囲と地図の濃い色が付いた部分はほぼ重なるのです。現在、地球温暖化で心配されている1.2位の海面上昇だけなら、防災対策の進んだ日本ではそう心配しなくても大丈夫。でも、そこに台風の高潮や洪水が加われば、西舞鶴の市街地はほぼ水没。もちろん、東舞鶴や宮津の市街地も同様なので大変な惨事になりそうです。

1997年に、地球温暖化の原因になる二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を減らすと世界中の国が集まり、京都で開かれた会議で議決された京都議定書が7年もかかってようやく発効しました。議定書の発効に7年もかかったのは、世界の温室効果ガスの4分の1を排出しているアメリカが受け入れを拒否したため。

このまま地球温暖化が進むと、南極や北極の水が溶けるので海面が上昇して、太平洋の島国では国が水没する恐れもあるというのはご存じですね。でも、海面上昇が身近に起こることの恐ろしさってあまり感じられたこと

ではないのでは。そこで、最近勉強を始めたパソコンに表示した地図の上に環境や

もともと地球が温暖化してえらいことになりだした地図の上に環境や



海面が3.5m上昇したときの西舞鶴の水没地域

最大の排出国であるアメリカが拒否したままの京都議定書が、どれだけ実効を挙げられるかはわかりません。でも、温室効果ガスの排出を減らす努力は、みんなが地道に進めていかなければいけないでしょう。